市民と市長の対話集会
「つながるまち、小郡」を語ろう！

議　事　録（要約）

目　次

○　議事録（要約）

1　予算に関する説明　大津総務部長　　・・・　１ページ

2　マニフェストに関する説明　加地市長　・・・　３ページ

1　予算に関する説明

大津総務部長：　それでは、29 年度の予算について、概要を説明いたします。

まず、正面を見ていただきたいと思います。その概要という事で、歳入歳出等のご説明をいたします。

まず、全体の予算概要ですが、本年度は 3 月議会に当初予算として骨格予算を提案しました。その後、6 月議会において、肉付け予算として、政策的な経費を計上し、提案をし、議会の承認をいただきました。全体的な予算規模は、195 億 8200 万円という金額です。

それでは歳入、一般的には収入からご説明をいたします。一般会計、9 月補正後の予算という事ですが、一般会計補正後の予算合計は 195 億 8200 万円となります。その内、自主財源が 44.1%、依存財源として、これは国や県等からの交付金等が入りますが、55.9%という形になります。

具体的に申しますと、全体の 34.1%を占めるのが市民の皆様から収めていただいた市税となります。18.7%を占めるのが地方交付税、これは皆さんご承知かとは思いますが、国から交付されるお金となります。また、23.4%を占めるのが、国・県の支出金となります。その他、市の借金である市債が 7%を占めています。

次に、一般会計の歳出をご紹介したいと思います。

歳出においては、経費の経済的な性質に着目した性質別の予算と、行政目的に着目した目的別という 2 通りの分析をしています。

まず、左側の円グラフになりますが、性質別に見てみると、義務的経費と言われる支出が、人件費や扶助費ですが、それと公債費があわせて 51.8%ということで、半分以上を占めています。また、道路整備や建物の新築・増築・改築などに使う、普通建設事業が 9%を占めています。

次に、目的別、右側の円グラフになりますが、民生費が 3 割以上を占めています。続いて、教育費や交際費、土木費といったものが構成比となります。

次に、市債残高を紹介いたします。市の借金である各年度毎の市債残高を、29 年度の予測での推移を示したものです。数字であるように、このグラフについては右肩下がりとなっています。このグラフの中には入っていませんが、平成 17 年度がピークで、この時の市債残高が 238 億でした。徐々に減っていき、平成 29 年度の予定では 183 億と見込んでいます。なお、この残高は通常債と臨時財政対策債という事で、大きく分類することが出来ます。通常債、ここでは茶色の部分でお示ししているのは、道路や建物を作る際に借り入れるものです。もう一つ、灰色の部分が臨時財政対策債と言い、国から交付される地方交付税が足りないと、市がいったん立て替えて借金をしますが、その償還に関しては、後年度に国から補てんされる事になっています。

全体的に見ると、ここ数年は下げ止まっている状況です。というのは、通常債が減っているものの、後年度に国から帰ってくる臨時財政対策債が増えているという事です。通常債は、大原校区公民館の建設や庁舎の耐震補強等々の公共事業を行っている関係で、借り入れが続いている状況が見て取れます。

次に、基金残高をお示しします。基金残高は、市の貯金である基金ということで、残高の推移を示しています。こちらも、先ほどの市債残高と同じように、29 年度は 6 月補正後の額をご紹介しています。この基金についても、このグラフには書いていませんが、平成 19 年度には一時期 12 億円まで落ち込んでいました。その後、行財政改革や国の財政支援などがあり、徐々に回復をし、現時点では約 35 億と見込んでいます。市債残高と同じく、ここ数年は取り崩しが続いていますが、市債残高であったように、例年になく公共事業を続けている関係で、少しずつ取り崩しが進んでいます。

それでは、今年度の主な事業について少しご紹介をしておきます。

まず、都市機能、都市基盤づくりの分野で、道路・防犯・防災などに関する予算の中から、東野校区道路をご紹介します。東野小学校から東野校区公民館を結ぶ道路は、道幅が狭く見通しも悪いため、国の社会資本整備総合交付金を活用し、道路の拡幅を行い、利便性・安全性を確保するという事業を進めています。次に、スマートインターチェンジの設置負担金ですが、（仮称）味坂スマートインターチェンジの設置検討にともなう調査業務に使う負担金で、今年度計上しています。最後に、防犯カメラの設置工事ですが、県の補助金を活用し、犯罪抑止効果が期待される市内 3 か所に防犯カメラを設置する予定です。

次に、活力ある産業づくりの分野で、農業・商業・観光などに関する予算で、産地パワーアップ事業という、農業者等が高収益な栽培体系への転換を図るための取組みを、すべての農産物を対象として総合的に支援するという事で、本年度予算を計上しています。
住環境づくりという分野で、環境・住環境・公園などに関する予算を計上しています。その中の一つとして住宅用太陽光発電システムの設置補助金、地球温暖化防止対策の一環として、太陽光発電システムを設置する方を対象とし、補助金を交付し、再生可能エネルギーの利用を促進するという補助金を定めています。一キロワットあたり 3 万円、上限が 9 万円という事で補助金の事業を計上しています。

次に、主な事業の 2 番目ですが、健康や福祉づくりで、社会保障関係や人権・同和対策事業等に関する予算です。その一つとして、本年度新たに策定したもので、保育士就職支援金という、保育士不足に伴う待機児童が発生する課題解決のため、新たに採用される保育士に対して、就職準備金を支給するために計上しています。

学校と地域文化づくりの分野で、学校教育・生涯学習・文化財などに関する予算のいくつかをご紹介します。三国小学校給食施設整備事業があります。各小学校に自校式給食施設を順次整備をしています。本年度は、三国小学校の整備で作業を進めています。町屋活用事業は、国の地方創生推進交付金を活用し、市指定文化財「平田家住宅」において、体

験講座や見学会を行うなど、町屋活用・活性化を図るために、予算を計上しています。小郡小学校校舎増築事業は、児童数増加に伴う教室不足の解消を図るため、校舎の増築を行います。

最後になりますが、地域自治体制づくりという事で、地域自治・地方創生などに関する予算を計上していますが、この中の一つとして移住・定住促進事業で、交通利便性の高さや快適な住環境という本市の強みをＰＲし、移住・定住に向けた事業に取り組んでいきます。

以上、簡単ですが、平成 29 年度の予算の概要のご説明に代えさせていただきます。ありがとうございます。

2　マニフェストに関する説明

加地市長：　改めまして、皆さまこんばんは。小郡市長の加地良光でございます。

まず冒頭に、九州北部豪雨災害において、近くのことですのでお知り合いの方が被災された方もおられると思います。亡くなられた方のご冥福をお祈りし、被災された方にはお見舞いを申し上げたいと思います。小郡市においても、皆さまにお願いしまして、大変多くの支援物資を集めることができました。また、それをいち早く被災地に送ることができました。現在は義援金をお願いしております。また、応援のために職員を現地に派遣したり、消防団の方々にも現地に入っていただいています。また、多くの方がボランティアとして一生懸命活動していただいています。引き続き、小郡市としましても、しっかりと心寄り添っているということを被災地の皆さんにお伝えしながら、応援をしていきたいと思っていますので、お力をお貸しいただきたいと思います。

さて、本日はお忙しい中に集まっていただき、本当にありがとうございます。また、日頃は、市政や地域のことについて大変なご協力をいただき、改めてお礼を申し上げます。

市民の皆さんとの対話集会の目的は、主に二つあります。一つ目は、私がどのように市政運営をしていきたいのか、その考え方を皆さんに知っていただきたい。二つ目は、マニュフェスト、私が選挙の際に掲げた皆さんへのお約束である政策集ですが、私がどのようなことを皆さんにお約束し、当選させていただいたかということを皆さんにお示しし、ご理解いただきたいと思っています。

マニフェストはあくまでも選挙の際のお約束です。これから改めて説明いたしますが、正式な政策にするために多少お時間をいただいたり、皆さんにお力をお借りしたりする必要

があります。そのあたりも含めて、今日はまず知っていただくということから始めたいと思っています。

先ほど、大津総務部長から、小郡市の現在の予算状況について説明をさせていただきました。広報紙などでもお知らせをしていますが、皆さんの目に直接触れることは少ないのではないかと思っています。このようなところから、皆さんにしっかりと知っていただく、これが市政の入り口ではないかと思っています。

さて、これから私が皆さんにお話しをします政策や約束などの前提として、私が小郡についてどのように考えているのか、今の小郡をどう思っているのかについて、皆さんにお話しをしていきます。

まず背景、一番大事なポイント。これからの自治体のあり方を考える際には、人口がどうなっていくかということについて、一緒に共通の問題意識を持っていただきたいと思います。小郡の人口について大体のイメージで見てください。実は 2015 年がピークとなっています。その後は緩やかに落ちています。つまり、これから小郡市の人口はマイナスになっていくということです。西鉄の各駅周辺には新しい住宅ができています。端間駅周辺、あすてらす周辺で新しい住宅ができています。三国が丘西側のあすみ地区や三沢駅南側でも宅地開発が予定されています。小郡駅周辺でも新しいマンションが建設され、新しい住民の方が入ってきているという印象を皆さん持っていると思います。小郡市の人たちはみんな、小郡市はベッドタウンとしてまだまだ大丈夫だという実感を持っていらっしゃると私は感じています。ところが、この数字を見ると、もう人口はピークから落ちている。今までとは違う考え方で小郡のまちのあり方を考えないと大変なことになるという前提が一番大事な問題です。周囲を見ていただければ、空き家が増えていたり、早くから開発された住宅地はお年寄りだけになっていたり、学校や就職で外に出て行った若者たちが小郡になかなか帰ってこなかったり、心配しておられるのではないでしょうか。これから、そういうことがどんどん進んでいきます。これを前提にもう少し詳しく見てみますと、65 歳以上の市民の割合が当然のように大きくなっていきます。また、18 歳から 64 歳までの産業を支えていく層が徐々に減っていく、これが全国共通の傾向となります。小郡で考えると、これから 15 年で 3,000 人の人たちが小郡から転出したり、亡くなったりしていくという予測があります。全国的にも 2025 年問題という問題があります。これが何かというと、団塊の世代の方々が 75 歳以上になるということです。6 人に 1 人が 75 歳以上の社会をこれから迎えていきます。健康に暮らしてある方もたくさんおられますが、どうしても 75 歳を超えると病院のお世話になったり、介護のお世話になったりということが多くなります。それを支える人たちはだんだん少なくなっていき、医療・介護を必要とする人が多くなる。このバランスをどうやって維持していくか、どうやって負担を分かち合いながら、明るい、楽しい生活を維持してい

くかということがとても大事になります。ちなみに、2025 年は東京でさえも人口が減っていくという大きな節目の年になります。そういうことをぜひ覚えておいてください。

そうした中で、自治体はどうしていけばよいか。人口が減っていきますので、国が地方創生という大きな看板のもとに、各自治体頑張ってくださいという政策を投げかけました。まちのイメージを上げていきましょう、まちにいろんな仕事を作ってください、いろんな方々の活躍の場を作ってください、魅力的なまちにしてください、そうすることによって住民の方々が安定的に暮らせるように、人口が減らないように努力してくださいと、国は地方自治体に宿題を投げかけました。小郡市では『恋来い！おごおり創生戦略』をレポートとして作成し、提出しています。これには小郡市がどうやって人口対策を行っていくのかが書かれています。皆さんは、これ自体をご存じないと思いますが、小郡市がどうしていくかということが書かれたものです。各自治体は、このようなレポートを国から書かされました。各自治体は、生き残りの中で自分たちが他の自治体に負けないようにしなければいけないという競争の中にいることに気付かなければいけません。今までは、自分たちの自治体で何となく住民の皆さんの満足を得られれば良いという感覚でやっていたものが、周りの自治体を見なければいけないということになっています。

つまり、子育て支援策が私たちの自治体より周辺の方が良ければ、子育てをする人はそっちに移ろうとするわけです。小郡に仕事が無ければ、仕事のしやすい福岡に移動しようとなるように、私たちが頑張っているかではなく、周りの自治体との比較の中で自分たちの政策を評価しなくてはならないということになっています。ここはとても大事です。

小郡市は今までは、福岡や久留米のベッドタウンとして、西鉄や他の民間の開発があり、なんとなく人口が増えるだろうという中で生きてきて、実際に人口も増えてきました。ところがこれからは、その保証がありません。今までは久留米市に小郡市から通勤すればよいと思われていましたが、久留米では、久留米から福岡に仕事で通勤をする人には新幹線の定期代を一部補填する、新幹線ができたから久留米から小郡を飛び越してしまう現象も起きています。つまり、今まではベッドタウンとして交通の便の良さが小郡の良さだったのですが、これが気付いたらベッドタウンとしてもおちおちとしていられない。私たちも一生懸命魅力を発揮して、多くの方から小郡が良い所だと選んでもらえる自治体になれるかどうかが、私たちの課題になっています。

私は今回の選挙で、そうした危機感のもとに小郡を変えていかなければならない。「つながろう、変えよう小郡　市民がワクワクする小郡」というマニフェストを掲げました。これは私が、こういう処方箋の中で小郡を変えていけば、魅力的になる、選ばれる自治体になるとの思いを、多くの市民の皆さまと討論して作り上げていった 100 項目以上の政策集です。今日はその中から抜粋で紹介していこうと思いますが、ポイントは何かといいますと、「つながるまち」をテーマにしています。小郡は、先ほども言ったように、交通の便は良い所で

す。西鉄の駅は７つもあります。甘鉄も通っています。さらに、高速道路も東西南北がぶつかるエリアです。この小郡が持つ力を活かせば、まだまだチャンスはあります。小郡はまだまだ実力があるところです。人が入ってくる、物が入ってくる、お金が入ってくる、情報が入ってくる、そういったものが結集しやすいまち、小郡はいろんなことを活かしていけば、力が発揮でき、魅力的なまちに変われるというところに目をつけて、小郡はいろんなものとつながっていきましょう、つながることでいろんなものが変わっていく、小郡が元気になるということをテーマに掲げています。

では、８つの柱をもとに、具体的にどういったことをやっていくのかを説明してまいります。

その１。一番大事なところですが、「市民の皆さんが主役のまちづくり」に変えていきますということです。今日は対話集会の１回目を皆さんの地域で行っていますが、今後は、予算を出すとき、大事な政策があるとき等に、このような形の集会を開催し、皆さんに説明し、情報を一緒につかんでいただき、一緒に話し合って、どういう方向だったら良いのか、どういう方法であれば皆さんからの協力を得られるかを、常に問いかけていこうと思っています。これが一番大事なことだと思っています。集会には来られない方もおられます。そういう方については、ご意見をいつでもいただけるように、こちらからの情報を出せるように、スマートフォンなども使いながら、いつも私たちと皆さんとで情報を共有して考えていくという形をとろうと思っています。これが１番目の柱です。

その２。「市民の役に立つ所づくり」市、役、所ですけれども、ちょっと難しいことを書いていますが、言いたいのは、小郡市の職員は、今一緒に仕事をしていますが、とっても優秀です。優秀な小郡市の職員をもっともっと活用し、力を発揮してもらうためには、一つポイントがあると思っています。もっと民間からいろんな方々の知恵を結集し、今までやれなかったようなことをやっていこう、その潜在力を活かしていこうと思っています。例えば政策研究所と書いていますが、これから私がやっていこうとしているマニフェストには、全国的にも先進的な自治体が行っていることを散りばめています。ですから、そういったことのやり方や知恵を持っている方に小郡に来てもらい、職員と一緒に考えてもらい、実践をしていく。あるいは民間の企業の方々の力を使い、小郡の魅力を発信していく、新しいビジネスを興していく、そんなこともやっていきたいと思っています。皆さんにとって頼もしい市役所にしていきたい、役に立つ市役所にしていきたいと思っています。

その３。「新たな共働のまちづくり」を目指します。今、まちづくり協議会として新しい組織が動き始めています。ご存じでしょうか。今日集まっていただいている皆さま方は、意識の高い方々なので、様々な形でまちづくり協議会の活動、コミュニティの活動にご参加い

ただいていると思います。簡単に概要を説明いたしますと、今までは各区が自治会を持ち、トップに区長さんがいる。いろんな相談事を区長さんに持っていくと、何とかしてくれる頼もしい方が各地にいるわけです。それぞれが、各区として活動をしてきました。これからは、区だけではカバーできない、あるいはもう少し広い視点で見た方が、いろんなことが効率的にできるのではということで、小学校区単位でまちづくり協議会という組織を作り、そこでいろんなことに取り組んでいくということで、新しい制度を市役所が皆さまに提案し、動き始めたというところです。ここで、いくつか総括をしなければいけないと思っています。まずつまずきが有りました。それは、当初提案をする際に、区長さんの報酬を一部持ってくることによって、まちづくり協議会の活動費にするという提案をしてしまいました。これについて考えると、これから区長さんの役割、区長制度は無くなっていくのか、自治会の活動を減らして、まちづくり協議会が全てのことをやってくれるという誤解が生まれてしまったと思っています。これについては、報酬を一部元に戻したりと制度が揺れ動いてしまいました。私は、小郡の場合には新しい住民の方もしっかりと自治会に関わっていただいており、自治会活動が重要な役割を担っていると思っています。この活動についてはしっかりと維持すべきと思っています。区長制度についても、役割をお願いし維持すべきだと思っています。

では、まちづくり協議会の仕事はどういうものをやるべきか考えたときに、小郡市役所はいろんな地域の課題があるので、まちづくり協議会を作っていただき、“必置部会”を設置して、これは必要なものですので必ずつくってくださいとお願いしました。ところが、いろいろな取り決めをしたなかで、いろんなことをお願いしてしまったために、これは元々自治会活動で行っていることで、まちづくり協議会、小学校区の活動として実施すると、ダブってしまう行事などが出てきてしまいました。今日は自治会のスポーツイベントをやって、明日はまちづくり協議会のスポーツイベントをやって、また明日も同じような活動をやって、というようなダブり感が出てきてしまいました。そうすると、皆さんがどういう印象を持つかというと、市役所がやれというからやったけれども、やらされてしまって忙しくなっただけで、よく分からない制度だと、？マークが出てきてしまったことがあると思います。この活動の基本が何かというと、本来は自治会活動ではカバーできない問題を、皆さんが共通の課題として見つけていただいて、それについて市役所が予算や、課題を解くための専門的な知識を寄せ集める、ＮＰＯの力を借りる、みんなが力を寄せ合うことによって課題を解決していくということが本来の趣旨です。皆さんも解決したい問題だから取り組もうと進めるのですが、市役所ができないことをコミュニティに押しつけてきたという、やらされ感になってきていることが一番の問題なのです。ですから、そうではないということを皆さんに理解していただき、やっていかなければいけないと思っています。ある地域では子育てが一番大事、ある地域では高齢者の問題が一番大事と、それぞれの地域によって課題があることが当たり前で、いろんなユニークな問題解決の方法もあるはずなのです。そういったものを地域ごとにとらえていただき、それをみんなで解決していくことが、まさに共働の意味ではな

いかと思っています。

もう一つの課題は、人材の問題です。コミュニティを作るためには、先進自治体では３０年くらい時間をかけて、しっかりと準備をして積み上げている。時間をかけている。小郡にも防災などの課題があるので、皆さんにお願いして急いで作ったという経過もありますが、多くの皆さんにはこの制度の理解が拡がっていない。また、いつも同じ人に担っていただいている。そういうこともあり、幅広く多くの市民にこの課題を共有していただき、地域の問題をどう解決していくべきか、いろんな人材を集めていく時間も必要ではないかと思っています。

今進んでいる制度ですから、この制度を直ぐに壊そうとは思っていません。今やっていただいている中で、良い所、ここは変えた方がいいと思っているところをもう１回総括していただき、共に働くという新たな定義づけをすることにより、制度のやり直しを図りたいと思っています。共の意味は、情報を共有する、この後は共に働くわけですが、そしていろんなものを創り上げていく、共に「共創」していく、その共と思っていただきたいと思います。情報を共有することにより、皆さんに参加していただく、そういう新たな方向づけができればと思っています。

その４。「市民が誇れるまちづくり」をしていきたいと思います。クロスロードでつながりますということです。一つ例を紹介したいと思います。農・食の集客施設構想を持っています。これは簡単にイメージしていただきますと、道の駅のちょっと賑やか版を作りたいと皆さんに提案しています。小郡は先ほども言いましたが、交通の要衝なのです。例えば鳥栖ジャンクションを利用する車の台数をご存知ですか。鳥栖ジャンクションを利用する車の台数は、年間に２５０万台入り、２５０万台出ていく。私たちのすぐそばに、それだけの車が走っているのです。鳥栖のアウトレットモール、行かれた方も多いと思います。ブランド品が安く買えます。あそこに来るお客さんは、年間５００万人もいます。つまり、エリアには人がいっぱい来ているのです。小郡のそば、鳥栖や基山はそれをうまく自分たちのビジネスに結び付けているのですが、小郡は素通りのまちになってしまっているというのが課題です。ですから、小郡にも立ち止まっていただき、お金を使っていただき、地域の皆さんもこの場所は自慢できるという場所を、皆さんの気持ちを合わせて、つなぎあわせて作りたいと思っています。それが道の駅のようなものではないかと思っています。道の駅を今までも作ろうということで、多くの方々が会議で話し合っていただきました。ですが、なかなか前に進みません。小郡だけの特産品で店を作って売ろうと思っても、魅力的なものとして、他の地域の道の駅に負けないようなものが、今から作ってもできないと思い二の足を踏んでしまったのが、今までの経過だったと思います。私は、これについて逆転の発想を考えています。どういうことかというと、小郡のモノで棚が全部埋まらないのであれば、小郡は交通の便が良い所ですから、逆に開き直って他の地域から特産品を集めてきて、ここに来ると九州のいろんな美味しいもの、新鮮なモノ、珍しいモノが買える、そういう人が集まる施設を

作ったらどうかと思っています。小郡の道の駅ならば、朝採れたての物を集めようと思えば九州各地の物が集まってくると思います。魅力的な場所が作れます。ですから、人が集まってきて、産直品が買える、近くに体験農園がある、子どもや家族が遊べる場所を作る、あるいは外国人の方々が来たら、ここでお土産を買っていただき、空港や博多駅に帰っていただく観光拠点になってもいいと思います。九州各地に出かける前に、まず小郡のあの店に寄って出かけよう、あるいはここに寄って帰ろうという、拠点にあるからこそできる集客施設を作ってみたいとイメージしています。そうすることによって、多くの方が集まってきます。集まってくれればこそ、小郡の物で売れるものをどんどん試していくという場になるわけです。小郡の農産品を買ってもらえることが分かれば作るわけです。出口がなければ農家の方々も、新しいものにチャレンジしようという意欲が出てこないわけです。あそこに行けばたくさん売れているから、今度自分が作ったものを持っていこうと、そういう気持ちになれば地域の方々も頑張れます。こういったものを皆さんと話し合いながら作っていきたいと思っています。

その５。「健康で安心して暮らせるまちづくり」をしていきます。地域交通ネットワークを確立しようと思っています。今日の皆さんの顔ぶれを見ましても、そろそろ免許返納の問題が近づいている方がおられるかもしれません。免許返納をお願いしますと言うのは簡単なのですが、返納した後どうなるかを考えると生活が一変します。ですから、簡単に免許返納してくださいとは言えないと思います。私達行政がやらなくてはいけないことは、ちゃんとした交通手段を確保していることをセットにしないと、みなさんにお願いしにくいと思っています。そのためには、小さい声で言いますと、空気を運んでいるコミュニティバスを、人を運ぶバスに変えることができないか、ルート変更などを一生懸命考えています。コミュニティバスを中心として、地域と繋がりがある交通手段、御原や希みが丘で走っている自治会バスを上手くつなげることができないか。皆さんがお住まいの場所も、車で行くと近いけれども、歩くと遠い場所を上手くつなげることによって、病院に行ったり、買い物に行ったりができやすいような環境を、みなさんでどうやって作っていくかを考えていかなければいけません。市役所が作るのではないのです。皆さんが一緒に、運転手のボランティアならできるとか、こんなことだったらできると、皆さんの知恵と力を結集し、ひとつひとつ作っていきたいと思っています。これは、ぜひ皆さんのご協力をいただきたいことです。

その６。「子どもを産み育てたいまちづくり」です。先ほどからお話をしていますように、子育てはこれから新しい住居を決める方のキーになる、とても大事な勝負どころです。待機児童も、潜在的待機児童を含めて５０数人小郡でも出ています。どうしたら子育てを安心していただけるかを考えたいと思っています。子ども未来部の創設と書いていますが、これは何かといいますと、皆さんの生活レベルで考えることと、市役所の組織で考えることは違うということなのです。市役所でいえば、お母さま方の健康や、子どもを産もうというお母さ

んのセクションが有ります。子どもを産む、育てるの部門も、教育の部門もあります。このように行政の分野が分かれており、複雑な制度があるわけです。そういったものを、子ども未来部として一連の流れの中で途切れが無いようなセクションをしっかりと作ることによって、組織的に体制を整えたいと思っています。子育てコンシェルジュは、そういった役割の中でどんな質問が来ても、しっかりと寄り添いながら解決をしていく、保育所への入園が上手くいかなくてもアフターフォローをずっとしていきますなど、どんなことをしたらこの方々の望みが叶えられるのかを相談できるような制度を、しっかりと充実させていきたいと思っています。

その７。「こどもが主役のまちづくり」です。教育の問題です。小規模の小学校がいくつかあります。その小規模校を魅力化するためにはどうしたらよいのか、また、大規模な学校は環境の改善が必要です。小郡は教育環境に頑張っており、誇れる良い環境ができていると思います。これをより良く、小郡として売りになるような、教育で人を集められるような、そんなまちに変えていければと思っています。

その８。「豊かな心を育むまちづくり」です。文化・スポーツ行政の問題です。皆さんも関心を持たれていると思います、体育館の整備計画という問題について、これから取り組もうと思っております。今の体育館はとても古い体育館で、このままでは雨漏りなどもして大変なことになる、４０年も経っているのでどうしたらいいかと考えているところで、基本計画ができています。これを現実のものにするために、どうしたらいいかという大事な時期に入っています。議会の皆さまとも一緒に対応していきたいと思うのですが、このための資金を潤沢に準備しているわけではないので、お金がない中で構想では４０億円という体育館ですから、もちろん良い体育館を作りたいですが、本当に建てられるかを現実問題として、皆さんも一緒に考えていただきたいと思っています。良い体育館は大事なのですが、周辺の自治体にも同じような役割の体育館があるでしょうから、小郡が持つべき体育館がどのようなレベルのものなのか？身の丈に合ったものが必要だと思います。でも、この機能は小郡の体育館の魅力として確保しようというようなことを含めて、一番大事なのは、これから公共施設を建てる際には、建設費の４～５倍が維持・管理・修繕費にかかってくるということなのです。４０億円の体育館を建てれば、その体育館を使い切るまでに２００億円程度のお金がかかることを覚悟しなければいけないという計算になるということです。お金があるときは、立派なものを建てて、あとは何とかなるさでよかったのです。これからは、自分たちの子どもや孫のことまで考えると、立派なものを建てると維持・管理・修繕のために毎年毎年大変なお金を払うということになります。ですから、それを払わなくていいような仕組みを作ったり、逆に払えるだけのお金を計算して、それで建設費をこの辺に抑えておこうという、これからの長い期間を考えたうえでの公共施設の作り方、考え方をもたなければいけないと思っています。ぜひこういう課題を共有していただきたいと思います。

最後に「目標達成型市政」です。今８つの柱をご説明しましたが、これは実際私が何をしていきたいかということです。この掲げたマニフェストを目標として実際に実現をしていくというのが、私の市政のやり方になります。ただ、このマニフェストはあくまで選挙の際に、選挙に当選するためにお約束した内容でありますから、ある面ではこれは私の個人的な目標であります。ですから、これを実際に政策として生かすことができるのか、今行っている政策をどう変えていけばこれが実現できるのかということで、政策の検討と、それをいつやるのかという行程表づくりをしなければいけません。そうすることにより、これが実施計画となって初めて私の考えが公の皆さんとのお約束に変わっていきます。さらに、１０年単位で作っています小郡市の総合振興計画という計画があります。これは１０年間という大きなスパンの中で、小郡市をどういうふうにしようと決めている大きな目標集になります。これと、私の考え方、私のマニフェストを実際に計画したものとを、ちゃんとあわせなくてはいけません。逆にいうと、私の考えを実現したいと思っていますので、総合計画をある程度修正していかなければいけないと思っています。同じところ、違うところを整理し、それを皆さまにもう一度諮って、私の任期 4 年間、もし次も許されるのであれば 8 年間になりますが、何をしていくのかという大きなわかりやすいビジョンを、皆さんにお示しする作業にこれから入ることになります。今日はその一端を皆さんにご理解いただこうという説明を行いました。

そして、大事なポイントは、「市民起点」ということを柱にしていこうと思っています。市民起点が何かというと、単純に言いますと、悩んだときに、これは市民の皆さんに良いことなのか、悪いことなのか考え、市民の皆さんのための政策を実行していきたいと思っています。

そして、その方法は、今日先ず１回目ですが、皆さんとの「対話」、お話をしながらこれを進めていきます。対話を、小郡市として政策を進める一番大事な手法として進めていくということを、改めて強調し、実際にこれから対話をしながら、意見をいただき深め合っていきたいと思っています。

まずはご清聴、ありがとうございました。よろしくお願いいたします。